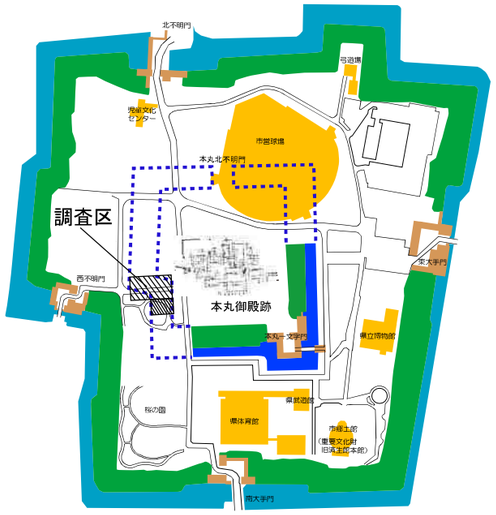
# 史跡山形城跡(2015)　本丸西堀・西土塁跡発掘調査現地説明会資料

平成27年11月14日（土）　山形市教育委員会社会教育青少年課

調査要項

| | |
|---|---|
| 遺跡名 | 国指定史跡　山形城跡 |
| 所在地 | 山形市霞城町（霞城公園） |
| 遺跡番号 | １番（山形県遺跡地図） |
| 調査期間 | 平成27年4月15日～11月30日（予定） |
| 調査面積 | 本丸西堀・西土塁跡　約１，７００㎡ |
| 調査原因 | 史跡山形城跡整備事業（文化庁補助事業） |
| 遺跡種別 | 城郭（近世城郭） |
| 時代 | 近世・近現代 |
| 遺構 | 堀跡・土橋跡・溝跡・土坑・井戸跡など |
| 遺物 | 陶磁器碗皿類・瓦類・木製品など |
| 調査事業の主体 | 山形市公園緑地課 |
| 調査実施の機関 | 山形市教育委員会 |
| 調査担当 | 山形市教育委員会　社会教育青少年課 |



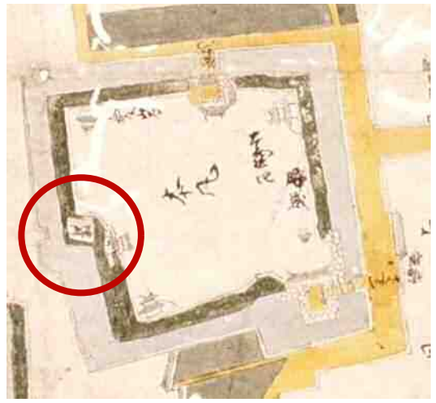

第１図　山形城跡調査区位置図

## １　本丸西堀の埋門（うずみもん）の概要

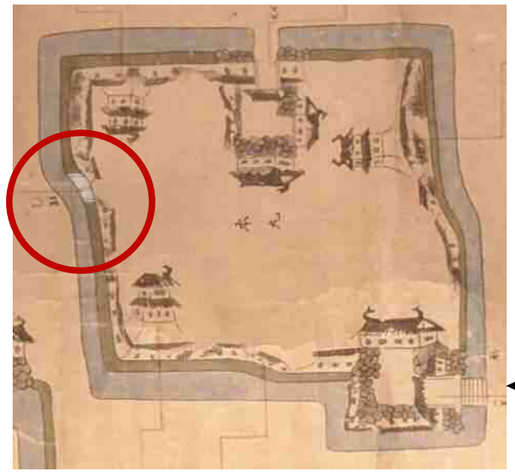
平成27年度は、本丸西堀跡調査区にて「埋門（うずみもん）」地点の調査を行いました。埋門は、江戸時代後半の山形城絵図に描かれることが多い門跡で、「本丸一文字門・本丸北不明門」に次ぐ本丸第３の門跡です。絵図には本丸西土塁の屈曲部に埋門平場が描かれ、堀を渡った二ノ丸側には通路にあたる突端がうかがえます。

発掘調査では、埋門跡は近代以後のかく乱により平面遺構は失われておりましたが、二ノ丸対岸の通路は「土橋」遺構が出現しました。この土橋は元々の地盤を掘り残したもので、堀が築かれる以前（最上時代）の「井戸跡」が見つかりました。

埋門とは「土居や石垣の中の隧道に設けられた門、また塀の下からでる門（日本城郭辞典）。」とあり、『非常時の脱出口』の性格と読み取れます。山形城は御殿の配置位置から二ノ丸西門に近いこの位置に設けたものと推定しています。



第２図　大給松平氏時代絵図（愛知県西尾市蔵）



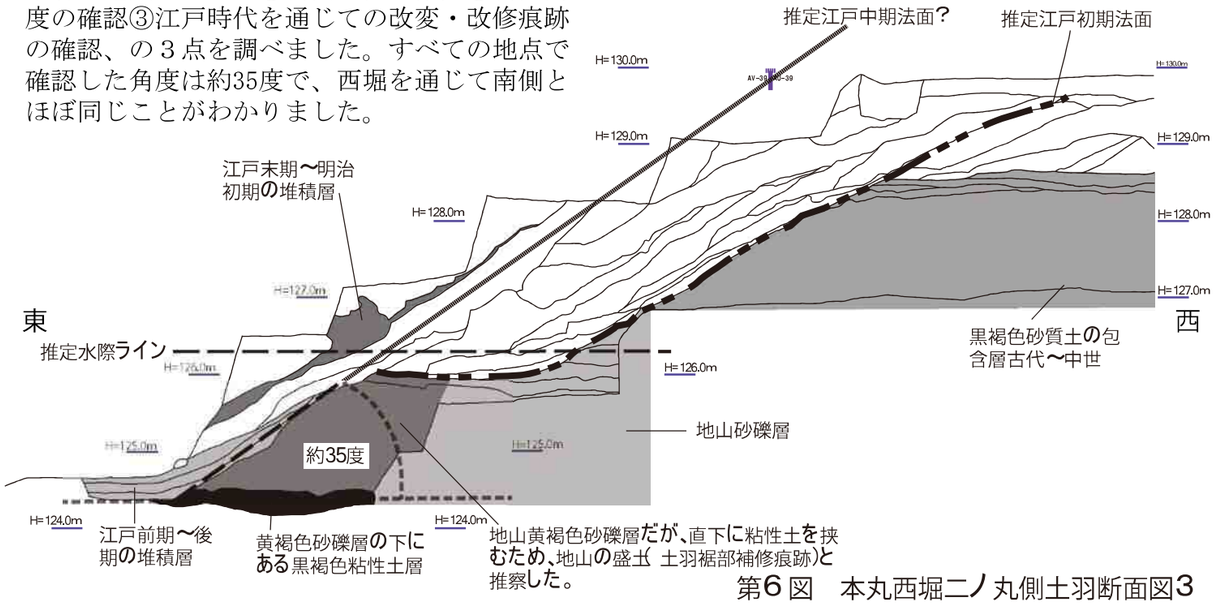
第３図　秋元氏時代絵図（山形市立第一小学校蔵）

歴代藩主年表

| 和暦 | 西暦 | 藩主 | 石高 |
|---|---|---|---|
| 延文元年 | 一三五六 | 斯波兼頼 | |
| 慶長五年 | 一六〇〇 | 最上義光 | 五十七万石 |
| 元和八年 | 一六二二 | 最上家親 | |
| | | 最上家信（義俊） | |
| | | 鳥居忠政 | 二十二万石 |
| | | 鳥居忠恒 | |
| 延享三年 | 一七四六 | （大給）松平乗佑 | 六万石 |
| 明和元年 | 一七六四 | 中略 | |
| 明和四年 | 一七六七 | 幕府領 | |
| | | 秋元涼朝 | 六万石 |
| | | 秋元永朝 | |
| | | 秋元久朝 | |
| | | 秋元志朝 | |
| 弘化二年 | 一八四五 | 水野忠精 | 五万石 |
| 明治二年 | 一八六九 | 水野忠弘 | |

## ３　本丸西堀二ノ丸側土羽法面の調査

堀跡の調査は、断面確認調査を行いました。堀跡の造築にあたり①斜面工法の確認②斜面角度の確認③江戸時代を通じての改変・改修痕跡の確認、の３点を調べました。すべての地点で確認した角度は約35度で、西堀を通じて南側とほぼ同じことがわかりました。



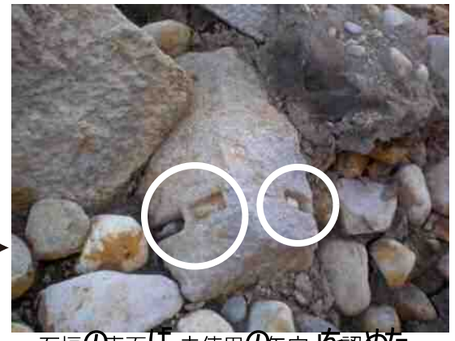

第６図　本丸西堀二ノ丸側土羽断面図３

## ４　本丸西堀跡埋門南側・崩落石垣検出部の調査

この石垣は、加工の状況から櫓台石垣の石材で大給松平時代の絵図（第２図）に描かれる櫓跡由来と考えられます。しかし秋元氏時代の絵図に記載はなく寸法等も不明ですが、石垣の加工状況を今後調査して年代を推定してまいります。

第７図　AW-38グリッド崩落石垣全景

石垣の上面に掻き込み欠損が認められる。これは石垣の補修に際し、高さを調整する工法。



石垣の表面に「未使用の矢穴」を認めた。

**編集後記**

現地説明会開催に当たり関係各位に多大なご理解・ご協力を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。尚、山形城跡の復原事業にかかわり山形市では関連する資料を探しています。お心当たりの方は下記までご連絡下さいますようお願いします。

【お問い合わせ先】〒990-8540 山形県山形市旅篭町二丁目3番25号 山形市まちづくり推進部公園緑地課 TEL023(641)1212㈹
【編集・発行】山形市教育委員会社会教育青少年課文化財保護係　平成27年11月14日（土曜日）

## ２　本丸西堀跡・西土塁跡調査区の遺構の概要

### ①本丸西土塁跡の調査概要

（１）ＡＹ−４０グリッド地点

**目的**：現況地表面下の堆積土において推定西土塁の痕跡の有無を確かめることと、より古い時代の山形城に関する遺構を把握することを目的としました。

**成果**：推定西土塁の堆積層は、かく乱により認められませんでした。その直下には大規模な溝跡がみつかり、南北方向に延びていました。斜め堆積の地層があり、砂や土を交互に敷き詰める「版築」の技法により斜面を堅固に造ったものと推定されます。

（２）ＡＹ−３５・３６グリッド地点

**目的**：現況地表面下の堆積土において推定西土塁の痕跡の有無及び埋門跡（通路等）に関する遺構を確かめることと、より古い時代の山形城に関する遺構を把握することを目的としました。

**成果**：土塁の痕跡・埋門関連遺構は削平・かく乱により認められませんでした。その直下には南北方向に延びる盛土跡と溝跡がみつかりました。盛土はのちに埋め立てられてますが、その埋土から瀬戸美濃天目碗・皿等が出土しており、戦国から江戸初期の盛土と推定されます。

（３）埋門（平場）地点

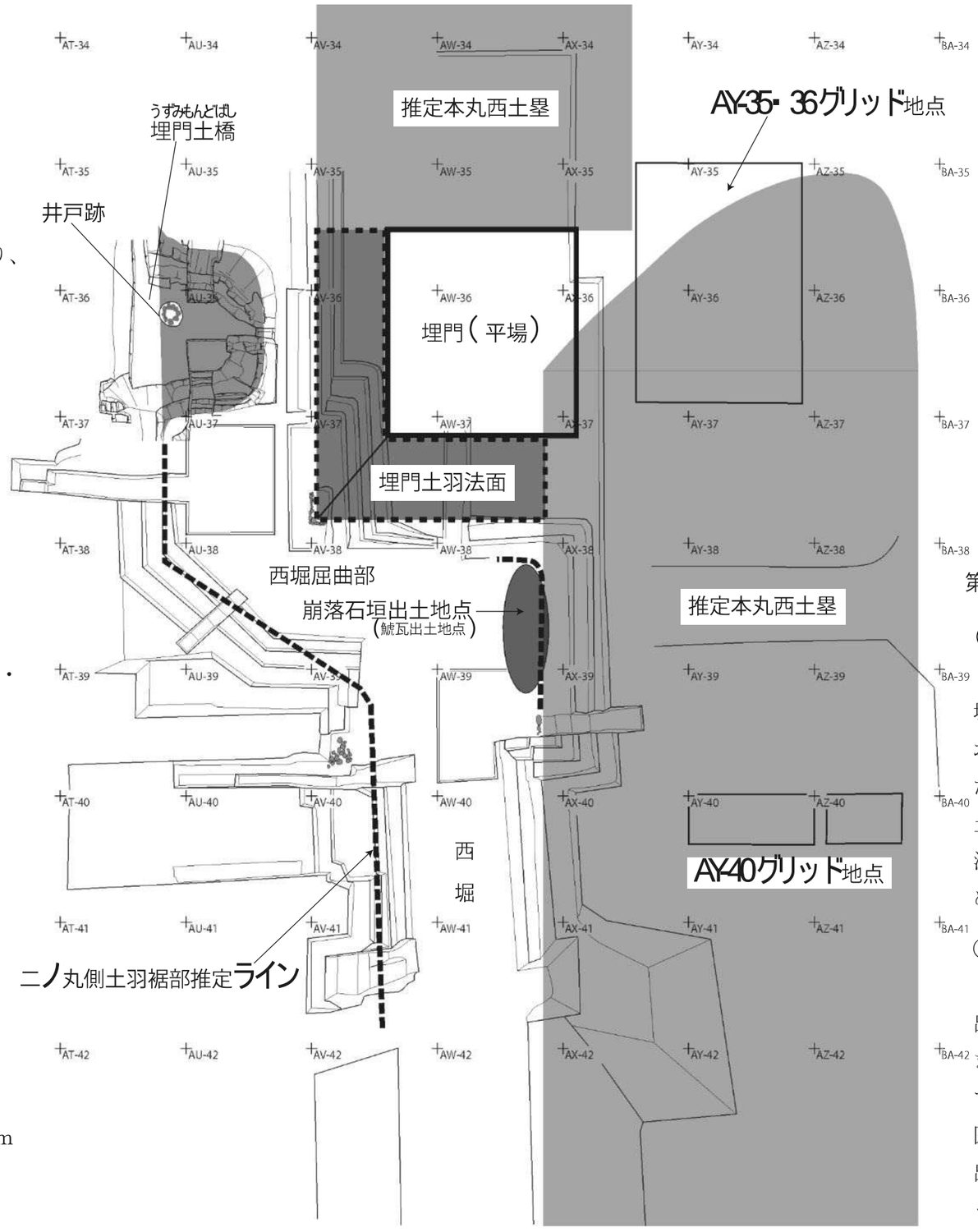
**現況**：かつて同地点は公園園路に隣接して「噴水」施設があったため、深くかく乱されていたため、かく乱層直下ですでに埋門造成時の盛土のため遺構は全くありませんでした。

### ②本丸西堀跡の調査概要

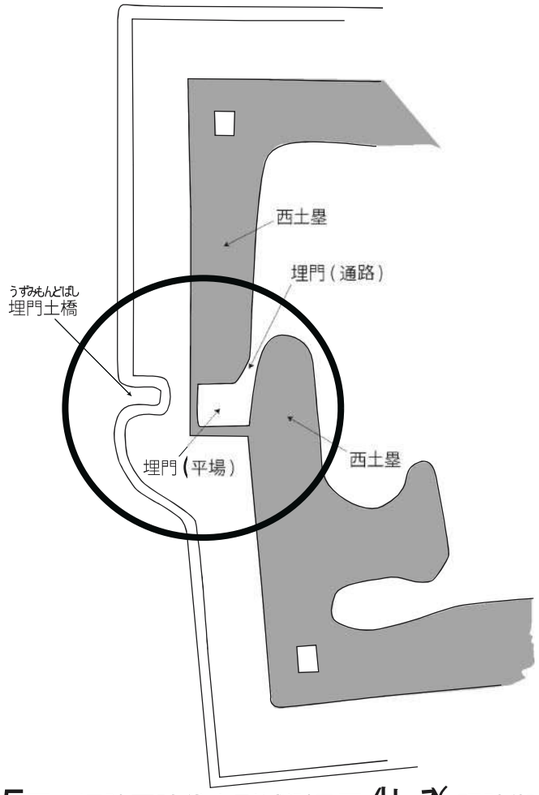
（１）埋門土橋（うずみもんどばし）地点

**成果**：現位置は明治期測量図（第５図参照）と概ね合致しました。また、遺存状態は良く堀底より約3.5mまでは削平を免れ残っており、裾部は護岸などの遺構はなく、地山切土の砂礫層が支持層でした。

土橋上面には井戸跡等が検出されましたが、土橋に伴うものではなく、前時代（最上氏？）と推測しました。




第4図　本丸西堀跡・西土塁跡　発掘調査地点平面図




第5図　旧陸軍時代山形城測量図（トレース）（現防衛省所管）

（２）その他堀底等に関する地点

**成果**：堀底は今まで同様、平坦な「平底」でした。また、埋門の屈曲部の周囲で堀底が西に向かって低くなっており、埋門土橋南側あたりで約30㎝低くなっていました。堀跡の土塁対岸は「二ノ丸側土羽」と呼んでいます。土塁裾部も含めて「護岸石垣」は存在せず、砂礫層の法尻でした。唯一、埋門の南西出隅に玉石基調の土留め石垣（?）が認められました。

### ③出土遺物の概要

**成果**：本丸西堀跡の出土遺物は瓦が主体となるが、出土量は少なく、特に埋門あるいは土橋周辺からまとまった瓦の出土が見られず、瓦葺き建物の存在を確認できていません。今後の調査の進展に期待します。但し、図示（第４図）の崩落石垣地点から『黒鯱瓦尾部』が出土したことから、絵図にある櫓台石垣の可能性が高くなったといえるでしょう。

また、土塁跡からは最上氏時代の戦国から江戸初期の遺物が少量出土しました。